

マレーシア国籍生徒に関わる特色ある指導の実践について

帯広市立大空中学校 学級数9 (校長 黒島 俊一)

1 はじめに

北海道の人口減少が進むなか、道内における外国人労働者は増加傾向にある。道内における外国人労働者に関わる厚生労働省北海道労働局発表のデータによると、2019年10月末時点で外国人労働者数は24,387人である。外国人労働者総数が初めて10,000人を突破した2014年と比較すると6年間で約2倍に急増している。このことにより、外国人生徒の増加に伴う就学機会を確保することが求められている。

本校においては、今年度よりマレーシア国籍の中学校第3学年女子が1名在籍している。母語はマレー語であり、日本語がほぼ分からない状態であった(DLAによる判定が測定不能)。本人及び保護者の在日期間が浅い中で高校進学に対して不安を抱えていたため、高等学校第1学年適応年齢であったが、中学校第3学年に転入し、日本の文化や言語を学ぶことにより、在日に備えたい意向が保護者からあった。このことから、本校では、当該生徒が生き生きと学校生活を送るために、次の取組を重点的に行った。

2 本校の特色ある実践

「通常学級で日本人の生徒と共に学校生活を行う中で日本の文化を学び、日本語を徐々に習得したい」という、本人及び保護者の意向を尊重し、個別の支援計画及び個別の指導計画を立案し、定期的な評価を踏まえて指導内容や指導方法の改善に努めた。

(1) 宗教(イスラム教)への対応

- ①ハラールフード対応により、「給食」から「お弁当」への転換を家庭と連携して実施
- ②サラート(お祈り)の時間と場所の確保
- ③男性(職員・生徒)における身体的接触(握手等を含む)の禁止に関わる校内での共通理解及び配慮
- ④ヒジャブ(かぶり物)の着用による学校生活(体育等の授業)での共通理解及び配慮

(2) 通常学級において日本人の生徒とともに通常の授業を受けることについての対応

- ①「ポケットク(音声・文字画像の読み取り機能付翻訳機)」により通訳機能を充実させ、日本語習得に向け自学自習ができる環境を整えている。外部機関を活用した放課後の日本語指導を併用している。
- ②ITによる言語における授業サポートを行っている
- ③同級生からのサポートにより、学級活動を一緒に行うことを通して、コミュニケーションのトレーニングをおこなっている

(3) 報告・連絡・相談・確認の徹底

- ①保護者との連絡を密にすることで共通理解を図り、生徒が安心・安全に学校生活を送ることが出来る環境を提供している
- ②兄弟が小学校に在籍しているため、家庭及び小学校と情報共有を図り、連携した取組を進めている

3 成果と課題

- マレーシアと日本の文化の違いの中で、当該生徒の困り感が想定されたが、教科等において、ペアやグループ等の場面で英語を用いた交流を意図的に設定したことにより、当該生徒は安心して学級集団に馴染むことができた。
- お祈りの時間と場所等、宗教上の対応を行ったことにより、保護者との信頼関係を築くことができたとともに、当該生徒が毎日安心して学校に登校できることにつながっている。
- ▲ 今後、外国籍の生徒が増加することが想定されることから、取り出しによる指導から、教室で直接サポートに当たることが出来る教員の人材確保が必要である。